

# 鳥取へ

## 前編

### にっぽんがある場所

懐かしい風景が至る所に残る鳥取県。「にっぽん」に出合いに訪れてみませんか。同県出身のシヨッパー編集担当者が里帰り。3回にわたって魅力をお伝えします。

「控えめ」ですが本物がある町です

今回、再発見した鳥取の魅力は、ノスタルジー。何よりも心に残る「昭和」の風景は、決してブームに乗ったものでなく、町に留まる「本物」なのです。

前編は県東部を旅します。まず鳥取といえばこれ「鳥取砂丘」(写真1)。訪れるたび、壮大な景色に言葉を失います。4月26日(土)から



紙びなを棧俵に載せて川に流す

加わり日本で唯一、砂の彫刻を展示する「砂の美術館」/第2期展示(写真2)は第1期展が作品が開催されます。来年1月3日(土)まで。春の旅ならば、鳥

取市用瀬町に江戸時代から伝わる伝統行事「流しびな」を訪れてほしいです。今年も旧暦の桃の節句の4月8日(火)、幼女が無病息災を願って男女一対の紙びなを棧俵に載せ、川に流します。多彩な人形を展示する「流しびなの館」もお勧めです。

続いて町歩きを楽しんでいただくと、宿場町の面影残す智頭宿を訪れました。格子戸が並ぶ家々の軒には杉玉

がっかり、江戸時代から続く酒蔵が懐(りん)とした表情を構えます。町の中心では、40もの部屋がある大庄屋の木造住宅「石谷家住宅」(写真3、4)が公開

され、素晴らしい造作とともに、大正時代の生活を垣間見ることが出来ます。

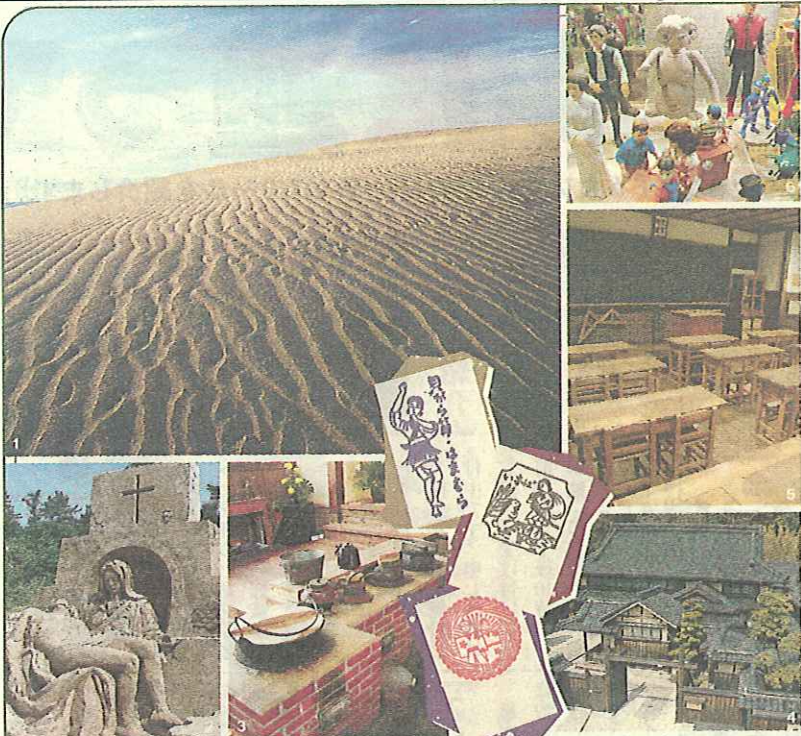
子どもの心忘れない大人も訪れてほしい

夕暮れ、鳥取駅近くを歩いていたら、ランドセルを鳴らし、名残惜しそうに家路を急ぐ子どもたちの姿が。出てきた先を追うと、そこには木造校舎の教室にわらべ歌、ウルトランマンにET…。

ふと過ぎ去った日のデジャビュに襲われます。「わらべ館」(写真5、6)では、懐かしいおもちゃが展示され、実際に遊ぶこともでき

### ●旅の情報は

問い合わせは、鳥取県名古屋事務所(中区栄 中日ビル4階/電話052・262・5411) または、県観光課(電話0857・26・7237)へ。同事務所では、旅の情報を取りそろえ、相談にも乗ってくれます。



### ◆地元のソウルフード「とうふちくわ」



プレゼント

豆腐と魚のすり身を合わせた全国でも例をみないちくわは、食卓に欠かせない存在。もともと、地元だけでひっそりと食べられていましたが、健康ブームもあって、最近、名物として売り出し中です。とうふちくわの詰め合わせを3人にプレゼントします。希望者は、〒住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、はがきかFAX(052・209・9372)で、〒460-0001 名古屋市中区三の丸1・5・2 中日シヨッパー「鳥取県プレゼント とうふちくわ係」まで。3/12(水)必着。

### ◆とっておきスイーツ

「貝がらもなか」



地元民謡・貝がら節にちなんだ「御菓子司・ふね」のもなか。香ばしい皮に、粒が残ったままのあんこがぎっしり。地元びいきかもしれませんが、私にとって、ここを越えるあんこはまだありません!